

こんにちは 保健師です!



保健師：平野 有美

「大腸がん」のこと 知っていますか?

～年に1度は大腸がん検診を受けましょう～

保健福祉課保健指導係 ☎52 - 2144

今年も、南プミニドックの時期がやってきました。南プミニドックでは、基本健診に加え、胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診を実施しています。この中でも、受診率が低く、最近、国でも研究を重ね、検討されている「大腸がん検診」についてお伝えします。

大腸がんとは?

大腸は消化吸収された食べ物のをためて水分を吸収しながら、便にするところです。約2mの長さがあり、大腸粘膜からがんができます。日本人では特に肛門に近いところのS状結腸と直腸というところのがんがでやすい傾向があります。

大腸がんの最近の傾向

食事の欧米化に伴い、大腸がんは年々増加し、現在1番多い胃がんの患者数に近づいています。また、将来はがんによる死亡のうち、大腸がんによる死亡は男性では肺がん、肝臓がんに次いで3番目、女性では1番多くなると推定されています。発症は、40歳代後

半から増加し、特に50歳以降の増加が著しく見られています。

大腸がんの特徴

発症には、食事の欧米化、特に動物性脂肪やたんぱく質の摂りすぎが原因ではないかと言われています。しかし、5%前後の大腸がんは、遺伝的素因も関係していると言われています。

危険因子としては

大腸ポリープになったことがある 血縁者の中に大腸がんにかかった人がいる 長い間、潰瘍性大腸炎にかかっている 治りにくい痔ろうがあることが指摘されています。

大腸がん検診とは

1番気をつけなければならぬのは、血便です。便秘、下痢、便が細い、お腹が張るといった症状が続いている場合も要注意です。比較的早期の大腸がんはほとんど症状がないことが多いので、40歳以上になったら大腸がん検診を受けることをお勧めします。町の検診では、食事の内容

による影響を受けにくい便潜血検査で実施しています。2日分の便を採り、便に血が混ざっていないかを調べます。大腸がんや大きなポリープからは目に見えない出血を起していることがあります。また1日分より、2日分の便で調べた方が、より正確に検査できますので、検診を受ける方は、なるべく2日分の便を提出するようにしましょう。

便潜血検査で陽性になったら?

便潜血検査では、痔の場合も潜血反応がでてしまい、陽性になることがあります。すぐに悪い病気を心配する必要はありませんが、すみやかに精密検査を受けることが必要です。また、痔の方でも1度は精密検査をお勧めします。精密検査はもう一度、便潜



血検査を行なうのではなく、最も正確な精密検査と言える内視鏡検査をお勧めします。内視鏡検査は下剤で便を全部排出して、腸を空っぽにしてから検査を行なうため、苦痛を伴い、負担も大きくなりますが、大腸がんは早期に発見すればほぼ完治しますので、きちんと精密検査を受けることが大切です。また、精密検査を受けなかった場合は受けた場合に比べ、大腸がんにより死亡する危険性が4～5倍高くなるのが国の研究で示されています。

40歳になったら年に1度は大腸がん検診を受けましょう

お伝えしたとおり、大腸がんは自覚症状が少なく、40歳代後半から増えている傾向がありますので、なんでもないとあっても年に1度は検診を受けることが大切です。今年も南プミニドックに合わせて大腸がん検診(便潜血検査)を行ないますので、申込みは保健福祉課保健指導係までお願いします。(健診意向調査で申込みをされた方は新たに申し込む必要はありません。)